

# 未成年での被曝 がんリスク増加

## 放影研、被爆者調査

レイの放射線を被曝した場合、被曝していない人と比べて60歳時の甲状腺がんの罹患率は2・28倍に増加すると推定されるという。

放影研の古川恭治研究員(43)らが、同研究所が実施している被爆者の健康調査を詳しく分析した。結果、20歳未満で被曝した10万5401人のうち、1958年から2005年までに371例の甲状腺がんの発症を確認。20歳未満で5μグレイ以上を被曝した被爆者の甲状腺がん113例のうち、36%が放射線による影響とみられるとしている。

また、幼い頃の放射線被

曝による発病のリスクは年齢とともに減るものの、50年以上経ってもなくなるという。一方、20歳以上で原爆による放射線を浴びた人については、甲状腺がん発症への明らかな影響は見られなかったという。

放影研では「幼少期の放射線被曝の影響は大きいとされてきたが、具体的な数字が出たのはおそらく初めて」としている。

「グレイ」は放射線によって物質に与えるエネルギーの単位で、「シーベルト」は生物に影響を与える放射線の単位。1グレイ＝1シーベルトで換算されることが多い。

放射線影響研究所(放影研、広島市、長崎市)は11日、未成年で原爆に遭った被爆者の甲状腺がん罹患率が、浴びた放射線量とともに上昇することが分かったと発表した。10歳時に1グ